

静岡県教育委員会

議事録

令和4年度 第20回定例
3月8日（水）

静岡県教育委員会教育長 池上重弘は、

令和5年3月8日に教育委員会第20回定例会を招集した。

1 開催日時 令和5年3月8日（水） 開会 13時30分
閉会 14時30分

2 会場 教育委員会議室

3 出席者 教 育 長 池 上 重 弘
委 員 藤 井 明
委 員 伊 東 幸 宏
委 員 小野澤 宏 時
委 員 天 城 真 美

事務局（説明員） 水 口 秀 樹 教育部長
塩 崎 克 幸 教育監
宮 崎 文 秀 参事（政策管理担当）
本 多 伸 治 参事（学校教育担当）
松 下 明 生 参事兼教育施設課長
井 出 好 彦 教育総務課長
山 下 英 作 教育政策課長
大 澤 篤 篤 教育DX推進課長
青 木 康 行 財務課長
本 村 勉 教育厚生課長
戸 塚 康 史 義務教育課長
中 山 雄 二 高校教育課長
高 橋 和 彦 特別支援教育課長
近 藤 浩 通 健康体育課長
藤ヶ谷 昌 則 社会教育課長
室 伏 伸 明 静東教育事務所長
鈴 木 勝 則 静西教育事務所長
松 下 和 弘 総合教育センター所長
柴 雅 房 中央図書館長
福 井 孝 子 義務教育課幼児教育推進室長

4 その他

- (1) 第40、41号議案は可決された。
- (2) 報告事項は了承された。

【開 会】

教 育 長： ただ今より、教育委員会定例会を開催する。
今回の議事録の署名は、私のほか、天城委員にお願いする。

【非公開の決議】

教 育 長： 議案の審議に入る前に、本定例会の議案の取扱いについて諮る。
第 40、41 号議案は人事案件、報告事項 2 は公表前案件のため、非公開としたいが、異議はあるか。

全 委 員： 異議なし。

教 育 長： それでは第 40、41 号議案及び報告事項 2 は非公開とする。公開案件から審議する。

報告事項 1 インクルーシブ教育保育研究「Spring プロジェクト」

教 育 長： 報告事項 1 「インクルーシブ教育保育研究「Spring プロジェクト」」について、福井幼児教育推進室長より説明願う。

幼児教育推進室長： <報告事項について説明>

教 育 長： 質疑等はあるか。

藤 井 委 員： この取組に市町の教育委員会は全く関与しないのか。

幼児教育推進室長： 沼津市を研究推進地区に指定しており、沼津市教育委員会と連携しながら進めている。

藤 井 委 員： 対象としている幼児教育施設で、教育委員会が所管しているところはあるか。

幼児教育推進室長： 直接の所管はない。公立の幼稚園とは連携が進んでいるが、私立とは連携が遅れている部分がある。連携が遅れている私立をあえてモデル園に指定し、今回の研究を進めている。

藤 井 委 員： 健康福祉部やスポーツ・文化観光部との連携体制もあるか。

幼児教育推進室長： 就学前教育推進協議会があり、健康福祉部とスポーツ・文化観光部の局長クラスも出席している。そこで、この研究の進捗についても協議している。

伊 東 委 員： モデル園はいくつ選定したのか。

幼児教育推進室長： 今のところ 3 園である。ただし来年度はもう少し増やす準備をしている。

伊 東 委 員： どのくらいに増やせそうか。

幼児教育推進室長： 5 園くらい増やす方向で準備を進めている。

小 野 澤 委 員： ウェルビーイングの向上について、測るものはあるのか。

幼児教育推進室長： 現時点でその子どもがどのくらいウェルビーイングを持っているか測るものさしはない。数値ということよりも、子どもの学ぶ意欲や活動に対する積極性等を高めていきたいということでこの言葉を使用している。

小 野 澤 委 員： 「他者との関係性をどのように認識するか」ということをカードを使いながら経験したり、他の人と心臓の音を感じて共感するようなウェルビーイングに関する取組がある。そのような取組も面白いと思う。

教 育 長： ウェルビーイングについては、昨日の実践委員会の小委員会の報告の中でも触れられていた。多面的な概念ということで、一つの指標で図るものではないと私も理解している。子どもたちのウェルビーイングという時に、「生き生きとして」という非常に主観的でほんわかした感覚も

大切だが、今回の件は研究であるため、客観的指標を導入することも大切だということも2年目、3年目の課題として浮かび上がってきたと思う。

藤井委員：このような体制はもっと以前からやっていればよかったのではないかという気がする。日本全体を見渡したときに静岡県が進んでいるのか、遅れているのか、そういう感触はあるか。

幼児教育推進室長：研究柱1は広島県がいち早く取り組んでいる。正式な数値はないが、導入している都府県は多くはないと思っている。

研究柱2も、小学校以降の取組については東京都も行っているが、それを幼児のところに適用していくということは、これも調べたものではないが、他の都道府県ではやっていないことだと思っている。

藤井委員：ソーシャルワーカーという特殊な領域分野に長けた方を活用するのは大いに結構だと思うが、一方で、学校現場がソーシャルワーカーの能力に匹敵するような学校内部の対応力を培っていく努力が必要だと思う。

教育長：質問を整理したいと思う。まず、教育委員会と健康福祉部との連携という枠組みは、本県のみならず、いろいろな都道府県で進んでいる。一方で、藤井委員から質問があった、静岡県のプロジェクトはどの程度先駆性を持っているのかという点については、他県ではあまり見られない先駆的な研究であるという回答があった。県と市が協力して行っている研究なので、先行研究を洗い出した上で私たちのこの実践的な研究の先駆性をきちんと位置づけていくはずである。本日こういう質問が出たということで、1年目が終わるところで先行研究の取りまとめをした上で、改めて今回のプロジェクトの先駆性をしっかりと研究従事者・該当園を含めたメンバーで共有する作業が必要と考えている。

天城委員：小学校との連携体制を作っていくことがとても大事だと思っている。ICTを活用し、引き続き小中高まで、できればひとりひとりを見守っていく体制ができれば、どのような成果が出ているかがわかり、対話もできるようになっていくのではないかと思う。

伊東委員：うまくいった事例を紹介するだけでなく、うまくいかなかった例や、対象全体を俯瞰できるデータを出してほしいと思う。

幼児教育推進室長：高校生までの見守りの体制については即答できないが、文部科学省でも類似の研究を進めていくという報道があったので、聞き取りなどを行っていきたいと思う。また、全体を俯瞰するようなデータ作成は、研究推進委員会で研究リーダーを中心に行っていきたいと思う。

藤井委員：私が知る限りにおいて、おそらく北欧3国とオランダが教育に関してかなり先進的だと理解している。諸事情は違うにしても、外国における類似の研究に関してもつぶさに調べる意味は大いにあると思う。

教育長：藤井委員から外国の事例が出てきたが、外国の事例の場合は北欧は移民難民が非常に多いので、私たちのプロジェクトでもターゲットになっている外国ルーツの子どもたちというのかなり焦点化されていると思われる。今回のプロジェクトの中にも外国籍とは言わず、外国ルーツの

子どもたちがいるということで、福祉部門等との連携だけでなく、言葉の壁、文化の壁をつないでいくような人たちとどう連携していくか、そういう枠組みをどう作っていくかということも、静岡県としては非常に重要な論点となるので、その点もぜひ、2年目に向けて視野に入れていただきたい。

幼児教育推進室長： ぜひ御意見を活かしていきたいと思う。

教 育 長： 他に意見は無いか。

全 委 員： (特になし)

教 育 長： 報告事項1を了承する。

(会議の非公開)

教 育 長： 会議を非公開とする。傍聴人は退席願う。

報告事項2 令和7年度(令和6年度実施)教員採用選考の日程

※ 非公表

<非>第40号議案 令和4年度永年勤続者表彰被表彰者の決定

※ 非公表

<非>第41号議案 令和5年度管理職員(校長及び教育部管理職)人事異動

※ 非公表

教 育 長： 以上で、本定例会の議事は全て終了した。
これをもって、令和4年度第20回教育委員会定例会を閉会とする。